

このほんしってる？

5・6年生

ここに紹介した本は、図書館にあります。

読みたい本がみつかったら、厚木シティプラザ3階
 こどもの本のフロア、依知北・睦合北・小鮎・荻野・
 森の里・玉川・相川・睦合西・南毛利の公民館に来て
 ください。移動図書館「わかあゆ号」でも、借りられます。
 本は、ひとり10冊、2週間まで借りられます。
 読みたい本が貸出中のときは、予約をしてください。

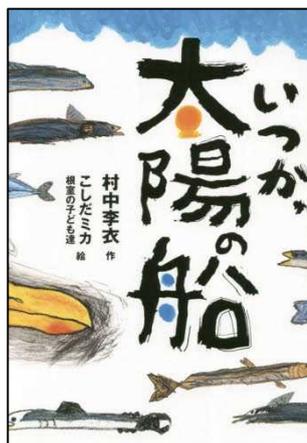


2020年

厚木市マスコットキャラクター
あゆの回

5・6年生 よみもの

『明日のランチはきみと』 サラ・ウィークス/作
 ギーター・ヴァラダラージャン/作 久保 陽子/訳 フレーベル館
 ラビは、インドからアメリカに家族で引っ越してきた。性格は自信
 家で、常にとりまきがいるディロンと友達になりたいと思っている。
 ジョーは、騒音が苦手で、言われたことを文字で書いてもらわないと
 わからない。みんなとは違うとされていて、目立つのが嫌い。転校生
 のラビを気に入っている。一週間後の食堂でラビを待っていたのは？



『いつか、太陽の船』

村中 李衣/作 こしだ ミカ/絵 新日本出版社
 海翔は、六年前まで気仙沼に住んでいましたが、東日本大震災に
 あい、家族で根室に引っ越してきました。お父さんは、これまで
 どおり、船を作る仕事で再出発をしますが、海翔は、心のどこか
 で、ふっきれずにいました。でも、根室での近所の人や、友達の
 あたたかさ、やさしさにふれ、少しずつ変りはじめていきます。

『ガーティのミッション世界一』

ケイト・ビズリー／作 井上 里／訳 岩波書店

ガーティの今のミッションは「世界一の五年生になる」こと。ガーティの前に強敵が現れた。転校生のメアリー・スー・スパイピーだ。かわいくて勉強ができて、パパは有名な映画監督。はたして、ガーティのミッションは成功するのか。そして、ガーティががんばる本当の目的は、ミッションの成功をある人に見てもらいたいからなのだ。



『きかせたがりやの魔女』

岡田 淳／作 はた こうしろう／絵 偕成社

ぼくが学校で、初めてその魔女に会ったのは、5年生の7月の雨の日。魔女は、「話を聞いてくれるだけでいい。」と言う。そして、語りだしたのは、ある小学校にいる「踊り場の魔女」の話。ぼくは、すっかり話にひきこまれてしまった。その後も2ヶ月に1度現れる魔女から、ぼくは魔女と魔法使いの話聞くことになる。

『ビブリオバトルへ、ようこそ！』

濱野 京子／作 森川 泉／絵 あかね書房

柚希のいる図書委員会では、図書館を盛り上げるためのイベントとしてビブリオバトルを考えた。それぞれがおもしろいと思う本を紹介し、一番読みたいと思う本を投票で決める。柚希は『リンゴの丘のベッツィー』を紹介することにした。初めてのビブリオバトル、うまくいくだろうか。



『ぼくらの一歩 30人31脚』

いとう みく／作 イシヤマ アズサ／絵 アリス館

栗山小 6年1組は、卒業のチャレンジプロジェクトで「30人31脚」の大会出場を決めた。2学期の途中に転校してきた水口萌花は、大会ルール的人数に1人足りず、出場をあきらめかけていたクラスの救世主と大歓迎を受ける。しかし、水口は、誰かに「おそっ」と言われるほど、断トツで足が遅かった。

5・6年生 しらべる・あそぶ

『キリンの運びかた、教えます 電車と病院も!?!』

岩貞 るみこ/文 たら子/絵 講談社

岩手県もりおかの盛岡市動物公園のキリン「リンゴ」が、東京うえのの上野動物園へ、お嫁よめに行くことが決まった。子どもといっても、3.5メートルもあるキリンをどうやって運ぶのだろう。ほかに、日本からイギリスへ、電車ちりょうを運んだり、治療こを続けながらの、こども病院の引っ越しなど、「運ぶ」プロの人たちの、3つのお話です。



『ため池の外来生物がわかる本 池の水をぬいた!』

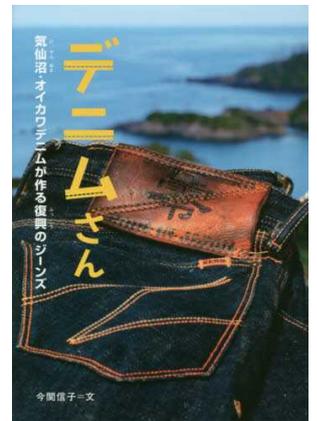
加藤 英明/文 越井 隆/イラストレーション 徳間書店

池の水をぜんぶぬくことを「かいぼり」と言い、むかしは、魚をとる「漁りょう」でした。かいぼりをするので、池の水をきれいにできます。最近では、池にすむ「外来生物」を、とりのぞくことができることから、注目されています。「カミツキガメ」や「ブルーギル」など、外来生物がふえると、なにがおきるのでしょう?

『デニムさん 気仙沼・オйкаワデニムが作る復興のジーンズ』

今関 信子/文 羽尻 利門/本文挿絵 佼成出版社

「オйкаワデニム」は気仙沼市にある縫製工場ほうせいで、地元の人からは「デニムさん」と呼ばれて親しまれています。会社ふきようは不況や東日本大震災しんさいで、まさかの連続にみまわれました。苦難くなんにあってもあきらめず、アイデアと協力でチャレンジし続ける社長おいかわひてこの及川秀子さんと仲間達。そこには明るく強い姿すがたがありました。



『風船で宇宙を見たい! やってみるから開ける無限の未来』

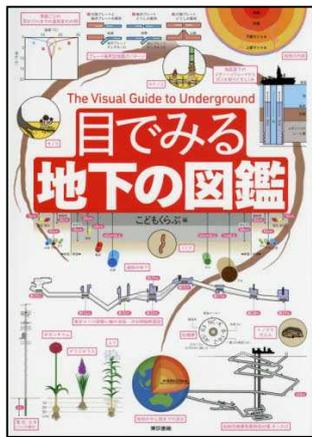
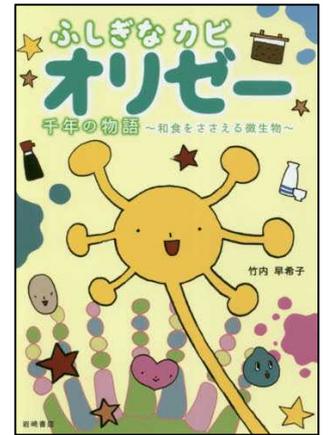
岩谷 圭介/著 くもん出版

岩谷さんが、航空宇宙工学こうくううちゅうを研究していた大学生だったころ、海外ニュースで、風船うちゅうを使った宇宙さつえいの撮影さつえいを知ります。自分も、風船うちゅうで宇宙さつえいを撮影さつえいしてみたいと思うようになり、風船うちゅうを使って宇宙開発うちゅうすることを決意します。失敗の連続でしたが、何度も挑戦ちようせんします。夢ゆめを持って、あきらめない心が大事だと教えてくれます。

『ふしぎなカビ オリゼー 千年の物語』

和食をささえる微生物』竹内 早希子／著 岩崎書店

オリゼーって知っていますか？ 日本の料理にかかせない、みそやしょうゆをつくる微生物です。千年以上昔から、日本人はオリゼーをたいせつに育ててきました。オリゼーを使って伝統の味をつくる、しょうゆ屋さん。多くの種類のオリゼーを保管する、もやし屋さん。大きな災害のあと、途絶えそうな味をどう守ったのでしょうか。



『目でみる地下の図鑑 The Visual Guide to Underground』

こどもくらぶ／編 東京書籍

普段生活していると、あまり気にしない地下の世界。目には見えないけれど、どうなっているのだろう。大きな木の根は、どこまで伸びているのか。アリの巣の大きさと深さは、どのくらいか。電柱や東京スカイツリーの基礎の深さは？ 動植物や建物にと、様々に利用されている様子がわかります。さあ、地下を探検してみよう。

*中央図書館 3階 こどもの本のフロアのご案内

3階の開いている時間

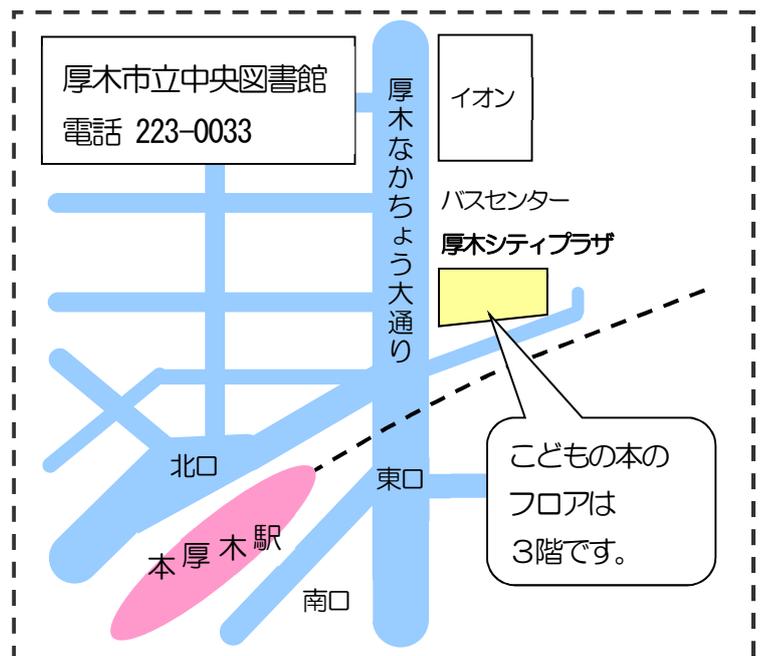
午前9時から午後5時まで

お休みの日

しせつほしゅび
施設保守日

年末年始

本の整理のとき ほか



図書館は、バスセンター南側の厚木シティプラザの中にあります。